

FC岐阜 大好き 通信

『ぎだいでおり』ではありませんが、そう呼んでいただいてもOKです。FC岐阜のサポーターが小さな話題を集めてお配りします。試合前の時間つぶしにご利用ください。会場に残されるとごみになっちゃいますので、お持ち帰りください。会場美化にご協力を。



内容は知らない。とにかく、結果だ。

後期第10節 **YKK AP** 戦 の巻

10月14日(日) 13時~

前節・アウェーの刈谷戦。またしても10人になっての逆転負け。ジェフリザ戦そのままの展開。なんとかJ加盟枠の4位は死守出来たものの、もう後がない崖っぷち。今節の結果次第では7位にまで落ちる可能性がある。しかし、過去を振り返っても何も変わらない。Jリーグ正式加盟の申請書類も提出した。得点力不足を補うべく、札幌から相川を獲得した。あとは、やるべきことをやるだけだ。今節の相手はYKKAP。すぐ上の3位チームをホームで叩かずしてなんとする。

J1時代の札幌が配布したMDPの言葉をここで引用したい。

「ホームなのだ。よそ行きのサッカーはいらない。泥臭く、勝たなければならない。最もぶざまなのは、負けることなのだ。」

◇FC刈谷戦

「後悔先に立たず」とはいうものの、10人になってなお十分勝った試合、それだけに悔しさひとしお。後半、退場劇の直後のPKによる失点で同点に追いつかれたものの、ディフェンシブに転ずることなく攻撃を続けたFC岐阜。これは評価できる。むしろ攻撃がシンプルになって連携がスムーズになった得点の匂いは前半より強く感じられた。刈谷はFC岐阜の「10人制サッカー」に対応しきれていない様子。ところが大詰めでポッカーあいたルートドリブルで持ち込まれ痛恨の被弾。やはり11人对10人だった。となると悔やまれるのはやはり攻撃陣。決められなければせっかくの「決定機」も意味を成さない。(TAG)

◇国体岐阜選抜も健闘しました

秋田国体成年男子1回戦、岐阜県-秋田県に行ってきました。

相手は秋田県選抜といっても、実質はAチームと同じJFLのTDKSC。しかもフルメンバー。3部のチーム相手に、Aチームから助っ人が3人いるとはいえ、8部のBチームが中心では流石に厳しいだろうと思っていました。

しかし彼らは試合開始から攻めの姿勢を崩さず、押し込まれても押し返し、ワンチャンスをもノリにして先制。後半開始直後に追いつかれはしたものの、GK海野剛がビッグセーブを連発したり、DF陣が体を張った守備で延長戦に持ち込みます。

最後は体力差が出て2失点して敗れはしましたが、最後まで諦めないその戦いぶりには、チームの、また選手個人の「誇り」や「魂」を感じ取ることができて激しく感動しました。

個々の能力では劣っていても、持てる力をフルに発揮し、その力を合わせることでチームとして勝るとも劣らない試合を演じた彼らを、現地で応援した者として誇りに思います。こういうサッカーを続ければ、岐阜のサッカーのレベルは必ず上がっていくでしょう。

感動と誇り、そして勇気と希望をありがとう、と選手達にはお礼を言いたいです。(あふろん)

直近3試合の結果

後07節 ○ 琉球 0-1 岐阜
(岐阜得点者: 片桐)
後08節 △ 岐阜 1-1 熊本
(岐阜得点者: 小島)
後09節 ● 刈谷 2-1 岐阜
(岐阜得点者: 伊藤哲)

順位表/ TOP9

順位	チーム	ポイント	得失点差
1.	佐川急	64pts	+42
2.	熊本	54pts	+23
3.	YKK	47pts	+12
4.	岐阜	43pts	+ 8
5.	北陸	43pts	+ 4
6.	千葉	42pts	+ 3
7.	Honda	41pts	+12
8.	横河	38pts	+ 2

次回HomeGame

後期第12節
ソニー仙台戦
11/03(土) 13:00
@大垣浅中公園陸上競技場
久々の大垣開催です。お間違

試合前の腹ごしらえも、試合後の感想戦も、
岐阜駅すぐ前・グランパレホテル東側隣の『博多ラーメン・びったれ家』だ!
10/14と10/15、このMDP持参の方に**生(小)1杯サービスかラーメン200円引!**

Today's Guest - welcome to GIFU - YKK AP

1962年にYKKサッカー部として創部。“北信越リーグ”オリジナルメンバーの1つで、富山県を代表する強豪。北陸電力(現:アローズ北陸)に1年遅れてJFL加盟。2004年から「YKK AP」となり現在に至る。2008年より、アローズ北陸と統合し新たにクラブチーム化することが発表された(YKK AP自体は労組傘下のクラブとして県リーグなどで活動継続)。

◇天皇杯3回戦・徳島戦@鳴門

●前半はほぼFC岐阜ペース。サイド攻撃が効果的で、特に20~30分頃は何度も決定機を作るも、得点には至らず、前半は0-0で折り返す。後半は徐々に徳島が勢いを増し、FKからの攻撃で得点を奪われる。その後は前掛かりにならざるを得ずバランスが崩れてしまい、追加点で突き放され2-0で敗北。一言で言えば『決定力の差』に尽きると思いました。最も埋めやすく、また最も埋めにくい差がJクラブとの間にある事を痛感させられました。しかし、選手達は必ずやこの差を埋めてくれると信じています。

JFLも今期残り8節、負けられない戦いが続きます。これからもスタジアムで力の限り選手を応援し、勝利に結び付けたいと思います。(ささたく)

●無気力とは言わないが、なすすべなく敗退。岐阜が攻めてるように見えてもそれはボールを持たされているだけで、カウンターで攻めたい相手の注文どおりに最初から最後までハメられっぱなし。選手もそれは分かっているのに、崩そうというアイデアが全く見えず、ただ体力を消耗するだけ。去年の草津戦でも同じような負け方をしましたが、今年は何の収穫もない敗戦でした。むしろ、「この1年間何をしていたのか?」ということが浮き彫りになったかと。

この試合では勝利もさることながら、先週の秋田と同じ「アウェイで格上挑戦」というシチュエーションで、どれだけのパフォーマンスを見せるのかが一番の見どころだったと思います。その視点で見ると、国体組と比べてしょっぱい試合だったと言わざるを得ません。Bチームが中心の国体選抜があればだけ岐阜魂を見せたのに、Aチームにはないのか? お前らヤル気あるのか? 何しに鳴門まで来たのか?

昇格とかそんなこと考える前に、ちゃんとサッカーしろよ! 戦えよ! そう思ってしまった試合後でした。(あふろん)

投稿用メールアドレス

gidaidohri@hotmail.co.jp

編集発行:『岐大通』製作委員会

今号の製作担当: ささたく & 吉田 铸造

